

「加工食品輸出クラスター組成のための意見交換会（福島県）」議事概要

日 時：令和5年11月29日（水）13:30～16:40

場 所：ホテルサンキョウ福島 2階「芙蓉」

出席者：

【加工食品製造事業者】

（株）五十嵐製麺、（株）菅野漬物食品、（株）郡山製餡、笹の川酒造（株）、
（株）サンエイ海苔、千駒酒造（株）、（株）たふいあ、（有）ぬか茂菓子店、
（株）宝来屋本店、（株）松葉園

【流通事業者】

渋谷レックス（株）

【支援機関等】

福島県食品産業協議会、（独）日本貿易振興機構（JETRO）、
（独）中小企業基盤整備機構、（株）日本政策金融公庫、（株）東邦銀行、
（株）大東銀行、（株）福島銀行
福島県よろず支援拠点、アクセンチュア（株）

【行政】

福島県、農林水産省、東北農政局、東北農政局福島県拠点

【加工食品輸出クラスター組成に係る主な意見】

- ・ 同じ課題を持っている事業者が参画することで、様々な情報交換ができるようになる。
- ・ クラスターを組成して展示会に出展する場合、個別事業者当たりの出展料負担が軽減されるというメリットは大きく、規模の大きな展示会に出展できるようにもなる。
- ・ 異業種のクラスターでは、それぞれの事業者が有する独自の販路についても紹介し合うことができ、販路の拡大が見込めるようになる。
- ・ どうしても事務局に負担がかかる場合があるので、参画事業者で分担しながらやっていくことが必要ではないか。
- ・ あまり参画する事業者数が増えると事務局の負担が大きくなりすぎ、また事業者間でバッティングする場面が増えてくるのではないか。
- ・ それぞれが情報を持ち合って共有することは非常にメリットが多いが、その後、実際に輸出して商品が売れるようになることを最終目的とすべきである。
- ・ クラスターを組んでも輸出までにあまり時間がかかりすぎるとモチベーションの低下につながりかねない。
- ・ 輸出のレベルに応じたクラスターが組成されると参画しやすい。